


# 三条教区通信

## 第103号

発行日 2016年1月1日  
発行者 三条教務所長 池守 章  
発行所 真宗大谷派三条教務所  
〒955-0071 三条市本町2丁目1-57  
E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp  
ホームページ: www.gobosama.net

三条教区 

### 今月の法語

〔真宗教団連合『法語カレンダー』より〕

じゅうに  
十二のひかり  
はな  
放ちては  
く  
あまたの国を  
て  
照らします

『和訳正信偈』(真宗教団連合制定)

Emitting the twelvefold light,  
the Buddha illuminates countless world.

Classical Japanese Translation of Shoshinge,  
Shinshū Kyōdan Rengō

### 年頭のご挨拶

三条教務所長 池守 章

新年明けましておめでとうございます。

2016年の新たな年を迎え、三条教区の皆様にご挨拶を申し上げます。

旧年中は、真宗興隆、法義相続・本廟護持の為の相続講活動、更には「三条教区・三条別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」厳修にあたり、大所高所からのご高配とご助言を頂戴いたし、様々な場面でご尽力賜りましたこと、あらためて厚く御礼申し上げます。

さて、新しい年を迎え、心新たに様々な教化事業等について取り組んでまいりたいと思っておりますが、年末から年始に掛けて思いますことは、私達の日暮は、目に映るもの、耳に聞こえて来るものに心が揺れ動きながら、外のものばかり追い求めて今日を生きております。

また、この頃は「いのちの長さ」を求めている時代でもあります。

中国の唐の時代に生きた、詩人である杜甫さんが、こんな歌を読んでおられます。

「人生七十古来稀なり」この「古と稀なり」を合わせて「古希」と読みますが、唐の時代は、人生70歳まで生きることは稀でありました。しかし、現代の日本は70歳以上の方が約700万人おられるそうです。そのような長生きをする時代になりました。

そこで、「いのち」の長さ、長生きすることだけが、人間の目的ではありません。「生きるいのちの深さ」が大事であります。

そのことを、松尾芭蕉さんが詠まれた俳句の中にこのよう

な俳句があります。

「やがて死ぬ、けしきは見えず、蟬の声」。蟬は、地上に現れて1週間の命だと言われております。ひとたび、土から出で脱皮すると、勢いよく鳴きます。

1週間で命が亡くなる。そんな儚さ、気配は伝わってきません。蟬は、死ぬまで一生懸命鳴いて生きている。その生きざまを、松尾芭蕉さんは自分の生き方にダブらせて、死ぬまで完全燃焼しなければならない。死んで行くことを忘れて生きていたら、生きることも忘れていってしまうとっておられます。

死んでいく身として、我が身を引き受ける覚悟こそが、逆に生きている「今」が大切なものとして、喜ばれ尊ばれる。死を遠ざけて、目をそらして生きている生き方こそ、ごまかしの姿であります。

親鸞聖人は、私たちに「限りある命を、どう生きようとしているのですか」と問い掛けられています。その事実には気が付き、引き受けていく生き方こそが、「深さ」として表すことができるのではないかと存じます。

賜った「いのち」の中で、「いのち」の輝きを持ちながら、これまで年々歳々に取り組んでまいりました教化事業の実績を尊重しつつ、教化事業の成果と課題を共有する点検総括をいただきながら、同朋会運動五十四年目を歩む施策の展開と実施に取り組んでまいりたいと、決意を新たにしております。

年頭にあたり、重ねて皆様のご協力・ご支援を賜わり、与えられた職責をまっとうしてまいりたいと存じますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 三条教区災害対策委員会のお知らせ

#### 三条教区災害支援実行委員会からのお願い

これまで皆様からご協力いただきましてまいりました東日本大震災救援金は、引き続き災害救援・復興カンパ金としてお受けしています。

現在、ご協力いただいた金額は70,315円となりました。

御礼を申し上げますとともに皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 研修会のご案内

#### ■ ハンセン病問題を考える研修会

**開催案内既送**

- ◆日 時 2016年1月21日(木)14:00~17:00
- ◆場 所 三条別院旧御堂
- ◆参加費 無料
- ◆対 象 どなたでも(事前申込不要)
- ◆主 催 真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会
- ◆共 催 「差別と真宗」共学研修会部門
- ◆問合せ 三条教務所(担当:藤波)

## ■ 仏青交流研修会

開催案内同封

(グリーンケア研修第2回)

- ◆日時 2016年2月9日(火)14:00~17:30
- ◆場所 三条別院旧御堂
- ◆講師 酒井義一氏(東京教区存明寺)
- ◆参加費 500円
- ◆対象 どなたでも(事前申込不要)
- ◆問合せ 三条教務所(担当:宮野)

## ■ 若坊守・准坊守のつどい

開催案内既送

- ◆日時 2016年2月20日(土)12:00~15:45
- ◆場所 三条別院・教区同朋会館
- ◆参加費 500円
- ◆対象 若坊守、准坊守
- ◆申込先 各組坊守会長
- ◆問合せ 三条教務所(担当:藤谷)

## ■ 声明基本講習会

開催案内同封

- ◆日時 2016年3月25日(金)9:30~16:00
- ◆場所 教区同朋会館
- ◆講師 声明講習会部門スタッフ
- ◆参加費 500円
- ◆対象 どなたでも(事前申込が必要です)  
得度班(得度式受式の内容から)  
法務研鑽班(葬儀・法要等の日常法務の内容から)  
声明研鑽班(中央声明講習の内容から)
- ◆問合せ 三条教務所(担当:藤谷)

## ■ 仏青交流研修会 報告

去る12月3日(木)、三条別院旧御堂を会場に、緩和ケア認定看護師の小池宜子氏をお招きして、「グリーンケア」をテーマとした研修会を開催しました。

小池氏が緩和ケア病棟で経験された、死別のかたちと遺族の反応の事例を紹介いただき、緩和ケア病棟で行われている、患者とその家族(遺族)へのケアと、それに向かう姿勢についてご教示いただきました。

以下は、参加者からの報告です。

## 第22組 浄念寺 廣瀬清和

グリーンケア研修第1回目があり、小池宜子氏のお話を聞きました。

私は仏青で話が出るまでグリーンケアとはどういうものなのか知りませんでしたが参加させて頂きました。そして話を聞いてみると、グリーンというのは悲嘆であり、悲嘆している遺族へのケアとなりますが、その悲嘆にも様々あり、突然死で亡くなった方、病気で亡くなる方、衰弱死した方と、様々な死からの遺族の悲嘆があるということです。そして、この悲嘆を知った上で、まずは遺族の方のそばにいて話を傾聴、心を傾けて聞くということが大切だと言われていました。確かにそれは非常に大切なことであり、お釈迦様が対機説法で教えを説いていたように、傾聴していく中でも、一人一人に寄り添い、向き合い、お念仏の教えを通して話していくことが大切であると改めて気づかされました。

また来年2月のグリーンケア研修会第2回目では、酒井義一氏にお話しして頂くそうです。実際にお念仏を通してグリーンケアをされているということで、どのようなお話が聞けるのか、次回も聞きに行きたいと思っています。

## 教務所からのお知らせ

## ◎ 門徒用授与物(30代・20代 宗祖親鸞聖人・蓮如上人御影)のお取扱い開始について

2015年度『三條教区報』及び所長巡回にてお知らせしておりました「宗祖聖人御影・蓮如上人御影の30代・20代」のお取扱いを開始いたします。

授与礼金は以下のとおりです。

## ・宗祖聖人御影(30代・20代ともに)

金襴表装:26,000円 無金表装:17,000円

## ・蓮如上人御影(30代・20代ともに)

金襴表装:17,000円 無金表装:12,000円

教務所に在庫がございますのでお申し付けください。

## ◎ 法規総覧のデータ公開について

「真宗大谷派 寺院・教会専用サイト」に法規総覧のデータ(目次付PDF)が公開されました。インターネット上で閲覧、また、パソコン、スマートフォン、タブレットなどにダウンロードしていただけますので、ご活用ください。

「真宗大谷派 寺院・教会専用サイト」は宗派公式ウェブサイト [www.higashihonganji.or.jp](http://www.higashihonganji.or.jp) のトップページ左側にあるバナー(左図)からアクセスできます(詳しくは『教区報』宗務所・教務所からのお知らせ「総務部」欄をご参照ください)。

## ◎ 三条真宗学院の入学願書受付について

2016年4月から開設する第5期の募集要項について、下記のとおり、お知らせします。

入学ご希望の方は、12月全寺院発送の入学案内及び願書をご参照くださり、出願ください。

**目的** 本学院は、真宗大谷派の教師たるにふさわしい人の誕生を願い、親鸞聖人によって開頭せられた本願念仏のみ教えを体得する学びの場として開設する。

**修業期間** 3年間

**講義期間** 基本的に4月から12月までの毎週土曜日(お盆・年末を除く)。その他、特別講義を実施。

**時間割** 14時から20時10分まで(休憩・夕食を含む)1時限90分。3時限制。

**講義場所** 三条教区同朋会館

**出願資格** 高等学校卒業または同等の学力を有すると認められた者。

**出願期間** 1月15日(金)から2月1日(月)まで

**出願手続** 出願期間中に入学願書(所定用紙)及び最終学校卒業証明書(または在学証明書)に入学試験料を添えて、三条真宗学院事務局へ提出してください。

**入学試験** 2月20日(土)14時から教区同朋会館にて。

**合格発表** 2月27日(土)受験者には郵送にて通知。

**学費** 入学試験料1万円、入学金3万円(初年度のみ)、授業料15万円、施設使用料1万円(三条教区以外の方は3万円)

**備考** 聴講生の受け入れはいたしません。

**問合せ** 三条教務所(担当:結城)

## ◎ 教区行事予定表

2016年	
1/7(木)	14:00 教務所事務始め(12/29～1/6 休暇) 青少年3部門全体会議
1/8(金)	14:00 真宗学院指導会議 アンケート検討委員会(企画委員会)
1/12(火)	10:00 女性研修会部門会議
1/13(水)	14:00 企画委員会
1/14(木)	14:00 教化センター 保育研究部会
1/15(金)	14:00 ～2/1(月) 真宗学院入学願書受付 児童夏の集い執行部会議
1/18(月)	14:00 推進員教習部門会議 「差別と真宗」教学研究会部門会議
1/20(水)	15:00 声明講習会部門会議
1/21(木)	14:00 教化センター ハンセン病問題を考える研修会
1/22(金)	ハンセン懇談会 連絡会
1/23(土)	8:30 ～24日(日) 保育心理士資格取得講座
1/25(月)	14:00 研修部会
1/26(火)	13:30 教区坊守会役員会 14:00 御坊市執行部会
1/27(水)	13:30 推進員研修会部門執行部会議
1/28(木)	14:00 教化センター
1/29(金)	15:00 靖国問題研修会部門会議
2/1(月)	真宗学院入学願書受付締切
2/5(金)	13:00 御坊市出店業者選考委員会
2/9(火)	14:00 仏青交流研修会
2/17(水)	14:00 企画委員会
2/18(木)	14:00 教化センター
2/20(土)	12:00 若坊守・准坊守の集い 14:00 真宗学院入学試験
2/22(月)	16:00 如来会学習会
2/24(水)	10:30 推進員連絡協議会役員会
2/25(木)	14:00 教化センター
2/27(土)	14:00 真宗学院合格発表

行事日程(会場)重複防止の便宜上、教区・別院主催以外の行事が一部含まれます。また、日程は変更される場合があります。

## 駐在教導のつぶやき

駐在教導 西山郷光  
一謹んで初春をお喜び申し上げます。三条教区駐在教導の西山です。このたび、2016年初頭のご勝機に、皆様待望の(?)「駐在教導のつぶやき」が復活することとなりました。三条教区の駐在教導2名、藤波と西山が交代でつぶやいてまいります。ご愛顧をよろしく願います。

「ぼく、しょうしんげよめないんだ。」松葉幼稚園に通うようになった3歳の息子が先日、僕のひざの上に座って背中を向けたままこんなことをつぶやいた。▼三条に赴任する前なので、もう2年以上前のことになるが、息子に『正信偈』に親しんでもらおうと思いたち、半紙に筆ペンで書いた「南無阿弥陀佛」のお名号(嫁筆)を部屋の柱に貼りつけて、気が向いたときに夕事勤行よろしく息子と二人でお勤めしていた。『正信偈』は歌だから、童謡なんかと同じように楽しく歌って読めたらいいんじゃないか、という発想だった。▼といっても、

当時2歳にもならない幼児が最後まで続くはずもなく、飽きたらそこで終了。大抵2,3ページ目くらいで終了となるまねっこお夕事をしばらく続けていた。▼そのうち、「五劫思惟」の手前あたり(短いけれど…)までは本を見ないで歌えるようになって、これはたいしたものだと夫婦で彼を褒めに褒めちぎった。彼も非常にうれしそうにしていたものである。▼どうやら、「自分は正信偈を勤めることができるんだ」と、得意になっていたようだ。▼幼稚園で『正信偈』を練習というか聞く機会があって、ぼくできる!と得意になってやってみたら、ほんのすこしでわからなくなって恥ずかしい思いをしてきたらしい。▼三条に来て、新しい生活を慌しく送る中、まねっこお夕事はすっかりやめてしまっていた。反省の気持ちも込めて「じゃあ今日は最後までやってみる?」と聞いたけれど、ひざの上で背中を向けたまんま、ぶっくらぼうに「やらない。」▼「しょうしんげ」というお歌が好きな気持ちと、恥をかけた嫌な気持ち、鼻っ柱が折れた悔しい気持ち。色んな気持ちがわさわさぐるぐる回ってお父さんの顔もみれない。ひざの上の小さな背中から漂う雰囲気をごんごんに察する38歳(当時)の僕。▼「じゃあ、また今度一緒にやろうな。」と言ったら、「…」と今度は無言の息子くん。▼大谷大学の三木彰円先生は、「『正信偈』は、親鸞聖人がお念仏の救いと歴史に出会われた。その感動をうたわれたものです。」とおっしゃられた。▼三条に来てすぐの頃、お寺を見つけたたびに「なむふかしぎこう!」とうれしそうに指差していた息子の弾ける様な笑顔を思い出しながら、まだ僕の片手にすっぽり納まる小さな頭にぼんと手を置いた。

## 新潟親鸞学会からのお知らせ

### 特別講座のご案内

2016年度の特別講座には、ドキュメンタリー映画『土徳流離(どとくりゅうり)ー奥州相馬復興への悲願』を撮影した青原さとし監督を講師にお招きします。

東日本大震災と原発事故についての映画は数多くありますが、この映画の場合、そこに、相馬で暮らす200年前に北陸・越後から移住した浄土真宗門徒という切り口で迫っています。前編「はるかなる山河をこえて」、後編「無量の時のあなたたちへ」の2部構成で、全体で200分を超えるという大作なため、今回は映画をすべてご覧いただくことはできませんが、監督が映像を参照しながら、その思いを語ります。

多くの方の聴講をお待ち申し上げます。

なお、当会では新潟市内の映画館シネ・ウインド等での全編上映についても現在交渉しています。

日時 2016年3月14日(月)13:00～16:30

会場 新潟グランドホテル(4F メイプル)

講師 青原さとし先生(映画監督・1961年広島の本願寺派真光寺生れ)

講題 『土徳流離(どとくりゅうり)ー奥州相馬復興への悲願』を撮って

聴講者 真宗教団連合新潟県支部会員および新潟親鸞学会会員

聴講料 無料(定員150名)

申込み FAXで新潟親鸞学会事務局 025(222)2830へ

新潟親鸞学会事務局 担当 富沢慶栄

〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町783 超願寺内

Tel 025-222-2820 Fax 025-222-2830 Mail choganji@nifty.com